



第 38 号  
 月 1 回 発 行  
 ひの心を継ぐ会  
 〒799-1336  
 住所:愛媛県西条市  
 上市甲 720-1  
 TEL:080-2986-0856

綱 領

- 一 私達は明德を明らかにします
- 一 私達は国家の鎮護となります
- 一 私達は大和世界を建設します

**お知らせ**

新型コロナウイルス感染症が再拡大している状況を受け、参加者の健康と安全を最優先に考慮し、第四回定期総会並びに「近藤美佐子先生を語る会」の開催を中止することといたしました。総会資料は、月報六月号にてご確認くださいませよう、お願いいたします。

**神道(十一)(大和世界の建設)**

竹葉 秀雄

**古事記**

**宇宙の創始**

— 実在 — (二)

**反省の学**

哲学は絶対的反省の学である。学問はすべて人間が生に対する反省から生じるものであるが、その第一次の反省としての認識は一般に客観に関するものである。哲学は絶対反省の学として、この第一次の反省をも反省し、第二次の反省、即ち客観でなく主観の自覚という立場に立たなければならぬ。はじめに掲げた「汝自らを知れ」のモットーを哲学の指針としたソクラテスは、哲学の道を示したものであり、カントの批判からデイルタイの自省に至るまで、主観の自覚としての哲学が高調せられたのは正当である。哲学は生の全体的反省、究極的反省であるけれども、全体は外延的に外に求めて達せられるものではなく、その場合の反省は常に相対的にして

究極的ではない。究極的なる全体は外に求むべきでなく内に求むべきである。第二次の反省に於ては、反省の反省として、第一次の反省の向外的遠心的なるを向内的求心的方向に向わしむるのである。斯くて反省の次元が高まるのである。哲学は一度この自省自覚の立場に立つのでなければ哲学となることは出来ない。ソクラテスやカントが哲学に於て不朽の意義をもつ所以である。が、哲学はここに止まるべきであろうか。主観は如何にしても主観に帰する能わざる客観との対立に於て始めて主観たるのであり、全く客観を主観に吸収し、客観の独立性を没却する時は却て主観も主観ではなくなる。客観の根拠を主観に求め、無限なる外延的全体の不可能なる総合の代りに内包的全体の統一を置き、第一次の反省の向外的方向を翻して向内的自覚の第二次の反省に哲学を高めたことはソクラテスやカントの画期的事業であるが、其処に止まるとき哲学が却て自己を抽象化するに至ることは、ソクラテスの精神を体系化したものとして解せられる限りのプラトン哲学や、カントの思想を主観化の方向に徹底した初期のフイヒテ(一七六二—一八一四)哲学の一面性がこれを実証するであろうと田辺元氏は言う。

## 第四章 士道論

## 第二節 士 — 命、志、道 —

菅原 兵治

思想の持つ力

三浦 夏南

## みことの哲学

而して命が既に独自のものであり、従って志が独尊のものである以上、その道も亦全く唯我独尊のものである。即ち吾々は独自の「命」の此岸に立ち、独自の「志」の彼岸に向って独自の「天稟」の力を以て、独自の「道」をひた進みに進んで行くのである。「命」の「必然」に拘束せられながら、此処に躍進の「自由」の喜びがある。この必然上の自由の躍進！その作用が即ち「生命」であり、その本体が即ち「命」である。而して茲に至ればその生活内容が既に独尊なるを以て、「命」はまたそのまま「尊」である。思えば人生はまことに「命」である。吾々が「境遇」や「性質」によつて拘束せらるるのも命（世間の所謂運命）であり、其の「命」の現状に慄らずして彼岸遙かに「志」を立つる力も、其の「志」に向つて精進する力も実は「命」の用 — 即ち生命であり、而して其の命の所有者たる人間そのものが「命」なのである。— 思えば吾々の生活は実に「命」の一字によつていみじくも証悟し得るもので、我が日本民族が肇国以来崇高なる人格の所有者を呼ぶに「みこと」の名を以てし、而してこれに当つるに漢字の「命」の字を以てしたということは永遠に世界に誇るべき道德的証悟である。人生は実に「天命」であり、而して「生命」であり、而して「命」なのである。— もっと如実にいえば、「天命」の上に立つて、「生命」して行く「命」なのである。かくて「命を知らずんば以て君子となすなし」という論語結尾の一語にも、「天命言之性。率性言之道。修道謂之教」という中庸の首章にも、其の「命」字に不尽の妙趣を汲み得ることであろう。

このところ形の持つ大切さということを書いてきた。日本精神や国体ということとは口では語られるが、それらの精神を育んできたところの生活の実態が欠如していることを痛切に感じて来たからである。しかし、それは思想はなくても良い、形さえ正しければ、心は末永く守られていくということではない。そうであるならば、これだけの歴史ある我が国がここまで伝統文化を喪失した危機的な状況に立ち至るはずがないし、これだけ日本らしい生活を奪われた我々令和の民は二度と立ち上がることは出来ないということになってしまう。我々平成に生を受けたものは生活の隅から隅までを二流の西洋近代の産物で埋め尽くされ、学校や社会から二流の資本主義的、民主主義的な偽善の価値観を押し付けられ続けて来たが、魂の根底にある大和魂はひと時も失うことなく、あるべき日本人の姿に回帰せんと日々行動し続けている。形だけが全てであれば、我々はもうすでに終わってしまったが、大和魂が減じぬ限り、我々はいつでも美しく清らかな日本人としての生活を取り戻すことが出来ると信じている。

私はユダヤ、キリストの歴史には詳しくない。外来の学問ではシナの儒教には親しみを感ずるが、インドの仏教になると異国の感じが否めない。ユダヤ、キリスト思想に関してはどうにも馴染めない感じがある。しかし、モーセが長く奴隷の地位に置かれていたユダヤ民族を先導し、民族の誇りと独立の為に行動したことには感激を受ける。自分たちが奴隷であることが当たり前になっていた人々に誇りを取り戻させ、独立させることが如何にむずかしいことであるかは想像に余りあることである。しかし、モーセのこの偉業にはユダヤ人だけでなく、多くの民族が勇気を与えられるのではないだろうか。どれほど長い間自分たちらしくない悲惨な環境に置かれていたとしても、一度志が確立すれば、何度でも立ち上がり復活することが出来るのである。ユダヤ人ですら斯くの如く強大な力を持つに至ったのであれば、況や我々神州の民をやである。彼らを遙かに凌駕する伝統と歴史が我が国には存在する。それならば、如何に我が国のあるべき姿が失われているようにも、一旦志が立てば、我々はもう一度立つことが出来る。

現在日本には様々な暗い現実が立ちふさがっている。現状だけ見ればもうだめかもしれないと思っても不思議ではないだろう。悲観的になるのが正常である。こ

の状態を見てまだ大丈夫と言っている人間は少し問題があるか、我が国が不幸になることで得をしている人間であろう。学術、教育、経済、思想、宗教、制度、法律、国家に於いて思いつく熟語でともに機能しているものが一つもないのが、我が国の現状である。しかし、心にさえ確固として志が固まっていれば、今からでも我々は変わることが出来る。高潔なる神州の民が長く奴隷の位置に置かれていたことに決別し、誇りある独立の歩みを始めることが出来るのである。それは、思想の力でなくて、なんであろうか。我々が日本人らしく生き得る仕組みは残念ながら我が国には残されていない。我々はこの強い目的意識を決して心の世界に留めて置いてはならない。強い思想を以て形を変えて行くことが肝心である。だからこそ、形、仕組みの重要性をこれまで記して来たのである。しかし、実際に我々に残されているのは一つの純粹な精神である。それを以てこの世に抵抗し、戦い続けることしかできないのである。

### とよくも農園だより

今年梅雨入りが例年より一カ月ほど早く、今月は雨の多い一月となりました。連日雨が降り続くと、気分も少し憂鬱になり、お日様が恋しくなります。雨と雨の合間に訪れる五月晴れの日は清々しく、畑のお野菜も光を浴びて葉が輝き、久しぶりに日向に干された洗濯物も気持ちよさそうに揺れています。

今月は雨の日が多かったので、倉庫で皮むきの作業が出来る葉ネギの収穫をほとんど毎日行いました。今月収穫した葉ネギは、一本一本葉先までピンとしていて、根張りも良く、水分を十分に含んでいて、今までの中でも最も満足のいく栽培ができました。いよいよ収穫が始まり、綺麗に収穫できたネギにうっとりしながら喜んでいたのも束の間、連日の雨と、晴れの日の気温の上昇によって、日に日にネギの背丈がぐっと伸び、一番良いとされるMサイズの時期を取り逃し、Lサイズになるネギがほとんどになってしまいました。採り始めが遅かったことと、一度に植え付ける株数が多すぎたようです。なんとか一日でも早く収穫したいと思い、近くで農業を営む三十代の友人たちに声をかけ、今はアルバイトという形でお手伝いして頂き、出来るだけ毎日出荷作業をしています。次期作からは、収穫時期を早めること・一度に植え付ける株数を調整すること・追肥のタイミングを場所ごとに変えることに試み、なるべくコンスタントにMサイズで出荷できるようにしていきたいと思えました。今回失敗したことでショックもありましたが、それ以上に貴重な学びをたくさん得られたので、また次期作も頑張りたいと思います。

家庭菜園の夏野菜も、葉が青々と茂り、元氣よく成長しています。今はバジルを摘んでガパオライスにして食べたり、株の間引き菜でふりかけを作り、おにぎりにして朝ご飯で食べたりしています。今週中にはズッキーニが採れ始めそうです。ワクワクしています。

夏の訪れを感じるような日差しも強い日も増えました。農作業の合間を縫って学問にも励み、心身ともに鍛え、暑い夏を元気に乗り越えたいと思います。



三浦 杏奈

## ★今後の予定

先月に引き続き個別での勉強会の対応をさせて頂いています。ご希望の方は事務局までお電話ください。

## ★一燈照偶 万燈照国

ひの心を継ぐ会は竹葉秀雄・近藤美佐子両先生の精神を継承し、発展させることを目的として生まれた会です。一人の「ひ」の精神が周囲の人々の心に「ひ」を燈し、やがてそれが国を照らす「ひ」になることを願い、活動を行っております。皆様には何卒ご理解とご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

## ★年会費

一般会員	三千元
賛助会員	一万円
特別賛助会員	三万円
支援会員	一万円

## ★振込先

「ひの心を継ぐ会」

愛媛銀行・本町支店・普通預金

口座番号 6142735

※入会希望・退会希望の際は、事務局までお問合せください。